

唯當初取定メ候地價ニ據ツテ五ヶ年間収稅可致旨
 =相改メ候ハ、其趣旨反對シテ其實同シキノミナ
 ラス今後百分ノニニ減スルモ或ハ不得止ノ理アツ
 テ百分ノ四ニイタルトモ五ヶ年間ハ當初取定ムル
 其地價ニヨツテ租額ヲ算出スヘキハ論ヲ俟サル儀
 ニテ固ヨリ租額ヲ据置ノ文字ナタレハ自然増減ノ
 際大ニ便宜ヲ得可申ト存候因テ大藏省へ照會ノ上
 追加スヘキ第八章ノ主旨左ノ通查計此段上陳候也
 五月八日

十月七日

第百五十二号

明治六年^{七月}第二百七十二号布告地租改正條例第七章
 ハ左ノ通但書追加候條此旨布告候事内務

第七章

地租改正云々

但改正調査ニ臨ミ既ニ土地ノ丈量相濟收獲地價等
 実地適當ノ申立ト難見据改正施行差支候節ハ定免
 地ト雖モ悉皆檢見法ヲ以テ收稅可致事内務
 地租改正事務局同

本年八月第百五十四号ヲ以テ來明治九年ヲ期シ改
 正成功可致旨御達相成候ニ付テハ各地方着手ノ緩
 急ヲ量リ本年ヨリ改正スヘキト來九年ヨリ改正ス

ヘキトノ區別ヲ立塊今大畧相運居候府縣ハ必ス本
年ヨリ施行不致候テハ未歲ノ成功ハ難期然ルニ本
坡ヘ全ク改正ノ一途ニ臨ミ候テセ旧法ノ寛苛ニ據
リ大ニ調査ノ難易有之譬へハ顯然一石ノ登量アル
地モ七八斗ナラテハ開申セス數回説諭ヲ加ヘ之ヲ
実額ニ歸著セシメントスルモ旧法寛漫ナル郡村等
ニテハ容易ニ承諾不致其極終ニ改正ヲ延期セント
スルノ事惜不少改正條例第七章改正相成候マテハ
用法据置ノ筈云々記載有之候ハ多ク旧法過重ノ地
方ト雖モ改正法ニ準據レ改正スルニ非スレテ叨リ
ニ減租ノ儀ハ採用セサシノ意味ニテ改正不服ヲ唱
候セノマテ一切旧法ニ据置ヘキトノ主意ニ非ス既

ニ成功ノ期限セ有之徒テニ歳月ヲ経過候テハ其弊
減租ノ地方ニノミ行ハレ増租ノ地方ハ決レテ行ハ
レ難キニイタリ第一改正ノ本旨ニ年歲レ最全國ノ
整理上ニ關係イタシ可申改ニ改正施行ノ際苦情フ
唱ヘ申諾セサルモノハ渾ナ是マテノ約束ニ不拘旧
法ノ奉則即チ檢見法ヲ以收稅為致候様イタレ度依
テ改正條例第七章但書ハ左ノ通追加相成度此段相
同候也十月四日

伺、趣聞届第百五十二号ヲ以テ布告候事十月七日

第二科議按史官本局歷查

地租改正事務局伺地租改正條例第7章ヘ但書追加
ノ儀右ハ矣地著手上尤ノ次第ニ相聞候間御許可相
成可然欽御指令按兵ニ御布告按トセ取調相伺候也

十月 七日

大正二年

内務

十月四日

第七十号

十一

明治六年七月第二百七拾二號地租改正條例第四章ニ地
租改正ノ上ハ田畠ノ稱ヲ廢シ總テ耕地ト唱フヘキ旨
布告候處詮議ノ次第有之ニ付自今田畠ノ稱併用スヘ
シ此旨布告候事

地租改正事務局伺

明治六年七月第二百七十二號地租改正條例第四條ニ
地租改正ノ上ハ田畠ノ稱ヲ廢シ總テ耕地ト相唱ヘ
キ旨掲載有之改正ノ儀ハ明治九年卒業期限ニ付十
年以後ハ田畠ノ稱無之苦ニ候處本年七月第五十三
号地租徵收期限更正公布ニハ實際ニ就テ田畠ヲ區
分スト有之右ハ素ヨリ田畠ノ收納物相異リ候ヨリ